熊井の森通信

２０２３年３月５日　第１５号

発行/熊井の森トラスト基金

〒３５０－０３１４　埼玉県比企郡鳩山町
楓ケ丘２－２－１かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール　kawasemi3001@gmail.com

☎０４９－２２７－３００１　FAX０４９－２７２－７０９２　ホームページ　ｈｔｔｐｓ：//hatoyama.info/

熊井の森トラスト活動　２０２３年春（３・４・５月）の活動

里山づくりでいい汗流す季節がやって来ました。
野鳥の繁殖に配慮しながら活動を再開します。
スケジュール表をご覧になって、お手伝いいただけそうなものがありましたら、ぜひ手帳に。
どの活動にも傷害保険が掛けてあります。
作業後、せめておいしいコーヒーをご一緒に！
ご参加の際はご一報ください。

■活動説明会＆懇親会

３月１９日（日）　総会の前に、これまでに活動に協力いただいている方々にお声がけして、今年度の活動概要を説明する懇親会。午前１０時～１２時、会場かわせみハウス、ぜひ参加を！

■山作業

４月１５日（土）・１６日(日)　**ピザ窯上１０番付近トレイル整備**　両日とも9時半、かわせみハウス集合。
５月２０日(土）・２１日(日）ピザ窯上１０番付近トレイル整備(予備日)　両日とも9時半、かわせみハウス集合。

■地元の味覚を味わう

４月２９日(日) **竹の子を味わう会**　熊井の森トラスト１・２号地に午前１０時集合（又はかわせみハウスに９時半集合）。熊井の森で朝採りの旬のタケノコをお昼に茹でて食べます。弁当持参。無料。
５月１４日(日)　**ピザ窯大人のピクニック**　午前１０時に現地集合。仲間同士でオリジナルトッピングでピザを焼く。ビール、ワインの持ち込み歓迎。協力者ご招待で会費３００円。

■熊井の森写真学校

４月２２日(土）２０２３年度第１回写真学校　午前９時かわせみハウス集合　午後３時終了。今年から受講者が自主運営。５回の授業分で年間参加料1万円。

■生きもの学習観察会

４月２３日（日）午前9時～１１時　かわせみハウス集合(現地合流可)　熊井の森を歩き、道端で見かけた草木や昆虫、樹木の名前などを図鑑片手にネットなども使って調べ、生きものの知識を自分たちで学ぶ観察会。年４回開催予定。

■エコフェスタ比企in鳩山

５月２７日(土) 午前9時　かわせみハウス前で開催
今回で第１６回目のバザー。活動資金稼ぎの重要なイベント。乞う、お手伝い。古本・手作りケーキ・リサイクル品などを出店ならなお歓迎。

新年度は里山づくりに本腰を

持続可能な里山保全に向けて

①トラスト地の管理保全を重点活動に

　2.7haのトラスト地を3ブロックに分けて維持管理をおこないます。3月中旬から8月中旬までは野鳥の営巣時期を避け、山の裾野部分の場所の散策 路整備や、案内掲示板の設置、周辺休耕地の下草刈りを行います。秋と冬期に立野谷津と石場沼奥のトレイル整備をします。

②自分たちで自然を学ぶ観察会

熊井の森トラスト地をガイドできる案内人養成のための基礎知識たとえば安全管理、 森の生き物や植物、地域特性、保全活動概要などを学ぶセミナーを計画しています。とりあえず、自分たちで里山に入り、図鑑片手に自主勉強の観察会をし ます。

③持続可能な里山保全体制の構築

地元地権者は我々と同じで高齢化が進行。次の世代の相続後継者や外部の若い世代との連携を図り、持続可能な 里山づくりの体制構築が急務です。そ のために何が必要かを探るプロジェクトは当団体単独では力量不足です。外部からの人材・資金援助を促すため、 国が推奨する「地域おこし協力隊」制度を活用したい。そして、熊井の森だけでなく、鳩山町のどこにでも眠っている自然財産を活かした地域活性化のアイデアを募る舞台として、「まちづくり懇談会」を再起動させます。

④里山の味覚体験イベントの継続実施

　当面は当団体が町内外の里山づくり支援者を募る活動を継続。そして、自 然を活かした地域おこしの事例の積み 重ねのために、味覚体験イベントは継続し、栗拾い、ハト麦収穫、柿もぎ、芋ほり、竹の子採りをじゃらん等を活用して参加を呼びかけます。

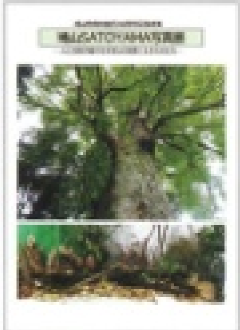
⑤各種SNSの本格活用

今の若い世代は活字よりSNSから情報を入手し、それによって参加動機づけを行っており、SNSの充実は必 至です。若い世代が魅力を感じてくれる企画をひねり出したい。「通信」に新規コラムを載せ、皆さんとの双方向のコミュニケーションを図ります。

鳩山町の「広報はとやま」３月号に載った販売中の記事

鳩山町町制施行 40 周年記念町民等主催記念事業

鳩山 SATOYAMA 写真展カタログが作成・販売されています



令和４年 10 月８日（土）・9 日（日）・10 日（祝・月）に鳩山町ふれあいセンターにてNPO 法人はとやま環境フォーラムにより実施された、鳩山SATOYAMA 写真展カタログが、作成され、販売されています。ご興味のある方は、下記までお問い合わせください。

■頒布価格　400 円（郵送料別）
■問合せ　NPO 法人はとやま環境フォーラム
☎ 049-227-3001
メール　kawasemi3001@gmail.com

ニーホオ　熊井の森歳時記

メジロはなぜ中国語で「繍眼鳥」

咲き始めた梅の枝の間から、澄んださえずり。鮮やかな黄緑色でひときわ目立つメジロは早春を告げてくれる可愛い小鳥さんですが、一年中見かける留鳥です。目のまわりの白いフチドリが特徴なので、英語でも「white eye」と言い、中国では「シュイエンニョオ」（繍眼鳥）と名付けています。「繍」は刺繍、すなわち美しい縫いよりの意味で、白いフチドリは刺繍の様に見えますから。自然界の細工はじつに不思議ですね。

中国・宋代の皇帝宋徽帝が画いた名画「梅花繍眼図」にメジロは主役として登場したことがあります。日本においてもメジロの愛玩飼養（鳴き合わせと観賞用）はかつてブームとなりましたが、現在は捕獲禁止対象になっています。今飼われているメジロは中国から輸入されているヒメメジロですが、放されると生態のバランスを崩す恐れも懸念されています。（王　菲）

熊井の森畑日記　ハトムギものがたり①

2年前の2021年早春、「熊井の森の地主さんで、使っていいですよ、と言ってくれている畑がある」と聞き、さっそく、そこを見に行った。おー、けっこう広い。１５０坪はあるとのこと。今は全体的に低い草が生えていて、耕すのも大変だなぁ、と思うほど。でも、かなり魅力的。まず今年は日当たり良さそうな右半分を使ってなにか栽培しようと話し合った。何を育てるか。私も少しは、野菜、花、ハーブなどを栽培しているけれど、本格的に農業をやっているわけではない。なにを栽培するにしても、農業経験少ない素人数人でやっていこうと言うのだから無鉄砲このうえないが、そこかしこにある休耕地を活用する何かのヒントを得られるかもしれないと、ちょっぴり思った。

育てやすくて役に立つものはないかとあれこれと考えていくと、イボ取りとして昔から有名なハトムギがどうだろうかと。ベテラン家庭菜園家の渡部さんに相談したら、「ハトムギ栽培は手がかからないよ」と教えてくれた。それだったら初心者にうってつけと、作付けは+ハトムギに決まった。4月30日、『何ごとも、まあやってみようか』を合言葉に、渡部さんに教えてもらいながら畑の土起こし。そして、ハトムギづくりが始まった。静かに燃えて…。（嵯峨　千代美）